

ちくま

昭和55年10月23日第三種郵便物認可 平成22年12月1日発行（毎月1回1日発行・通巻477号） ISSN 0914-9163

c h i k u m a

12

2010NO.477



表紙裏

[ふるほんのほこり]24・売売神言 | 林哲夫

巻頭随筆

[人間、とりあえず主義]147・意志と意地 | なだいなた……………2

[テレビ幻魔館]28・頑張れ! フリー | 佐野真一……………4

ヒーロー岡田斗司夫のすべて | 島本和彦……………6

七郎考 | 三上寛……………8

木になった人たち | 木村榮一……………10

蘇った“坂学”のバイブル | 山野勝……………12

書評者の憂鬱、愛書家の夢 | 市川真人……………14

【渡邊二郎著作集】刊行に寄せて | 高山守……………16

連載

[いにしへ東京歳事記]41・芋の出前とアイスクリン | 鈴木理生……………18

[この世は落語] 2 | 中野翠……………20

[剣の法] 2・剣技が〈兵法〉となった時代 | 前田英樹……………24

[沖縄の光を残した人・鎌倉芳太郎伝] 2 | 与那原恵……………28

[世の中ラボ] 8・50万人に売れた「教科書」 | 斎藤美奈子……………34

[探訪記者松崎天民・第三部] 9・

変り行く都市風俗をレポートする天民 | 坪内祐三……………38

[わたしの、東京物語]18・赤坂(下) | 小林信彦……………42

[魚雷の眼]20・サラリーマン作家 源氏鶏太 | 荻原魚雷……………44

[ネにもつタイプ]106・きれはし | 岸本佐知子……………48

[旅情酒場をゆく]20・歴史をたっぷり呑み干して…… | 井上理津子……………50

[珍本通読]15 | 古田博司……………56

[寝言戯言]11 | 保坂和志……………58

[神田神保町書肆街考] 6 | 鹿島茂……………63

[青春の光芒——異才・高橋貞樹の生涯]43 | 沖浦和光……………68

[話虫干 story debugger]15 | 小路幸也……………72

コラム

[佐渡ヶ島と地下街] 2・女店主の苦勞 | 喜多村さやか……………80

表紙絵 林哲夫

表紙・本文デザイン・カット 吉田篤弘・吉田浩美

さて、前回に引き続き、浅草の地下街にある居酒屋の女店主がお送りします。

うちは郷土料理の飲食店であつてスナックやクラブじゃないんだけど、カウンターの向こうに女性がいれば、かまつてほしくなる、話を聞いてほしくなるのが男という生き物のようです。

三軒隣の老舗の焼きそば屋は女性スタッフばかりだが、男性客に強硬な態度で臨む。「たかだか三五〇円の焼きそばで、そこまで求められても困るんだよね」と憤る女店主。女性が営む飲食店には、苦労がつきものなのでございます。

こちらが調理で忙しいのに、何回もママ、ママと呼びかけるお客さん。「だつてかまつてくれないんだもん」って言うので「だつたら高い金払つてかまつてくれる店に行きなよ」とあしらう。こんなやり取りでも、客は会話ができたことが嬉しくて、叱られたのに笑っている。ママってこういう意味なんだな。酔っ払い客は幼い子供に似ている。

相手が女性と見ると、プライベートの質問攻めにしたがり猥談を仕掛けたりする男性がいるけど、度が過ぎれば嫌われる

喜多村さやか

女店主の苦労

佐渡ヶ島と地下街 2

のでご用心。

来店のたびに猥談を繰り返す年配男性客。最初は話を合せていたが、いい加減うんざり。とにかく反応があれば嬉しいらしく、冷たくしてもいやな顔を見せても通つてきていたが、耐えられずに叱つたら来なくなつた。

自慢話をがつつり聞かされることもしばしば。お客様を立てて話を聞くんだけど、他人の自慢話を聞き続けるのは忍耐が要る。あるお客さんは次第に自慢話が来店目的になつてしまい、焼酎のキープボトルにつまみ一品で長々と店にいるようになった。「別料金つけてもいいですか?」と、喉元まで出かかる。ある日、会計が済んでも居座つてしゃべり続けたのでついに切れてしまい、叱つたらこの人も来なくなつた。

来店のたびに食材をお持ちいただいたり、近所の名店を教えてくださいませんか。最初はありがたいと思つていたので……。

お土産は、その場にいる他のお客様がたにすぐに振舞わなきゃいけない雰囲気。そして、「おいしいですー!」どこで売つ

てるんですか?」って言わなきゃいけない雰囲気。郷土料理の店にチャリシュー持つてきて「なつ。うまいだろう。店で出しなよ」つて、そりゃちよつとナシだろう……とは言えない雰囲気。

他のお客様にも感謝されて気分が良くなり、買つてきた店を教えたくて仕方がない顔。忙しくても手を止めて、店の名前をメモする羽目に……。この人、お店の応援をしてくれてるんじゃないかと、ちやほやされて気分よくなりたいただけじゃなよつ。

店のつまみが売れなくなつても困るし、このお客さんの相手で私の仕事の手が止まつてしまうので、次第に、土産をいただいてもその場で振舞わなくなつた。

一人で切り盛りする店は、店主が気分よく働けるのもお客様満足の大事な要素。女将とおしゃべりしたい気持ちはわかるんだけど、他のお客へのサービス低下や売上損失になることもある。どうしたつて、こちらに気を遣つていただけると、紳士的な男性をひいきしてしまふのだった。

(またむら、さやか「佐渡の酒と肴だつちや」店主

小社刊行物ご注文方法のお知らせ

■書店にご注文の場合

店頭がない場合には書店にご注文下さい。取り寄せてもらえます。
書店への取り寄せを、小社に直接ご依頼下さってもけっこうです。

■小社に直接ご注文の場合

小社に直接ご注文の場合は、下記の筑摩書房サービスセンターまで電話・FAX・ハガキのいずれかにてご連絡下さい。また、筑摩書房ホームページからもご注文できます。

URL : <http://www.chikumashobo.co.jp/>

※お支払い方法

代金引換の宅配便でお届け

●お支払い お届け時に、書籍と引換にお支払い下さい。

●送料 1回のお届けにつき何冊でも380円。

ご注文の定価合計が5,250円以上の場合は無料です。

「ちくま」定期購読のおすすめ

「ちくま」購読料は1年分1,000円です。複数年のお申し込みも承ります。
ご希望の方は、下記の筑摩書房サービスセンターまでご連絡下さい。
また、本誌をおすすめできるご友人をご紹介下さい。見本誌を送らせていただきます。お届け先のお名前とご住所をお知らせ下さい。ふりがなもお願いします。新規の方は何月号からか、住所変更等お知らせいただく場合は読者コードを、お教え下さい。

編集室から

*小誌の表紙を飾ってききました、林哲夫さんの絵は今月号が最後となります。2年間ありがとうございました。新年号からは小沢昭一さんの写真を予定しています。
*小誌に連載しました、立川談四楼さん「長屋の窟」、梨木香歩さん「ピスタチオ」が単行本になりました。
*太宰治賞の締切りが近づいています。12月10日締切り(消印有効)です。詳細は小社ホームページをご覧ください。(A)

筑摩書房サービスセンター

受付時間 平日・9時～17時

(除昼休12時～13時)

年末年始・夏期休業・社休日あり

〒331-8507

さいたま市北区榎引町2-604

TEL 048(651)0053

FAX 048(666)4648

郵便振替口座

(株式会社筑摩書房 00160-8-4123)